

# 横查情報月報



横浜市衛生研究所

# 平成27年9月号 目次

## 【トピックス】

夏期食品収去検査 .....	1
食品中の動物用医薬品検査結果 .....	3

## 【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 8月 .....	6
-------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報 .....	10
---------------------	----

# 夏期食品収去検査

夏期食品等一斉点検は厚生労働省医薬食品局食品安全部長から出された「平成27年度食品、添加物等の夏期一斉取締りの実施について」の通知に基づき、夏期に多発する食中毒等食品による事故防止と食品衛生の確保を目的に全国一斉に実施されました。

本市においては平成27年6月1日から8月31日まで夏期取締り期間と定め、一斉点検を行いました。そのうち、食品専門監視班と福祉保健センターによる収去により搬入された検体について、当所が行った細菌検査と食品添加物検査の結果について報告します。

## 1 細菌検査

細菌検査の内訳は、洋生菓子・弁当・そうざいなど177検体405項目(表1)でした。

検査の結果、規格基準<sup>\*1</sup>違反はなく、衛生規範<sup>\*2</sup>不適が14検体あり、検査依頼元に報告しました。

<sup>\*1</sup> 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたもののことです。

<sup>\*2</sup> 衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。

表1 細菌検査結果

平成27年6～8月(結果判明分)

食品区分	検査 検体数	検査 項目数	違反・不適 検体数	違反・不適理由
魚介類加工品				
魚肉ねり製品	1	1		
肉卵類及びその加工品				
加熱後包装食肉製品	4	12		
非加熱食肉製品	2	6		
アイスクリーム類・氷菓				
アイスクリーム類	15	30		
氷菓	11	22		
菓子類				
洋生菓子	19	57	11	大腸菌群陽性
和生菓子	1	1		
清涼飲料水				
清涼飲料水	19	19		
ミネラルウォーター	4	6		
氷雪				
ロックアイス等	4	8		
その他の食品				
そうざい類(加熱処理品)	55	165	2	細菌数超過
そうざい類(未加熱処理品)	24	32	1	細菌数超過
弁当類(加熱処理品)	12	36		
弁当類(未加熱処理品)	6	10		
合計	177	405	14	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

## 2 食品添加物検査

搬入された220検体(輸入品123検体、国産品97検体)の食品について、今回は野菜類・果物加工品、菓子類、清涼飲料水、かん詰・びん詰食品などを重点的に、保存料、着色料、甘味料など3,513項目の検査を実施しました(表2)。

その結果、表示にない着色料(赤色2号及び赤色106号)を検出した「野菜類・果物及びその加工品」1検体が違反となり、食品衛生課から輸入者を管轄する自治体に通報しました。その他の検体はいずれも食品衛生法に適合していました。

表2 食品添加物検査結果

平成27年6～8月

大分類	検体数	違反検体数	項目数	検査項目					
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤	発色剤
魚介類加工品	11		157	27	109	13	5	2	1
肉卵類及びその加工品	6		101	18	77				6
乳製品	1		3	3					
穀類及びその加工品	4		52	3	36	3	9	1	
野菜類・果実及びその加工品	60	1	889	177	576	95	20	21	
菓子類	45		706	84	473	73	75	1	
清涼飲料水	40		865	360	432	72	1		
酒精飲料	9		137	24	97	9	7		
かん詰・びん詰食品	34		457	69	302	47	30	9	
その他の食品	10		146	33	96	10	6		1
合計	220	1	3,513	798	2,198	322	153	34	8

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

## 食品中の動物用医薬品検査結果

当所では、食品中の動物用医薬品検査を行っています。今回は、平成27年4月から7月までに食品専門監視班が収去及び購入した食品の検査結果を報告します。

4月に市内を流通している畜産食品20件(牛の筋肉5件、牛の脂肪5件、豚の筋肉5件及び豚の脂肪5件)について、検査を行いました。その結果、表1に示すとおりすべての項目で不検出でした。

5月にインターネットを通じて購入した、魚介類10件(さけ目魚類(アユ3件、ニジマス3件)、すずき目魚類(カンパチ1件)及びその他の魚類(ナマズ1件、ヒラメ2件))について検査を行いました。

また、7月に市内を流通している魚介類10件(うなぎ目魚類(ウナギ2件)、さけ目魚類(ギンザケ1件)、すずき目魚類(ブリ2件、マダイ1件)、甲殻類(バナメイエビ2件、ブラックタイガー1件)及び魚介類加工品(ウナギ蒲焼1件))について検査を行いました。

これらの結果を表2に示しました。これらのうち、アユ1件より合成抗菌剤エンロフロキサシン(シプロフロキサシンとの和)が0.23ppm検出されました。また同じアユ1件より合成抗菌剤フラゾリドンが0.001ppm検出されました。これら2項目は基準値を超えていたため、食品衛生課から管轄する自治体に連絡しました。他の食品はすべての項目で不検出でした。

### 《基準値について》

今回アユから検出されたエンロフロキサシンは残留基準値が設定されていませんが、食品衛生法で「食品は抗生物質又は化学的合成品たる抗菌性物質を含有してはならない」という一律の規制が行われています。このため、エンロフロキサシンはアユには含有してはならない成分ということになります。また、畜産動物に投与されたエンロフロキサシンはその一部が脱アルキル化されたシプロフロキサシンに代謝されるため、代謝物も含めて評価することになっています。

フラゾリドンは発がん性又は遺伝毒性があるため、検出限界値は低く設定され、食品において検出されてはならない農薬等として別に定められています。

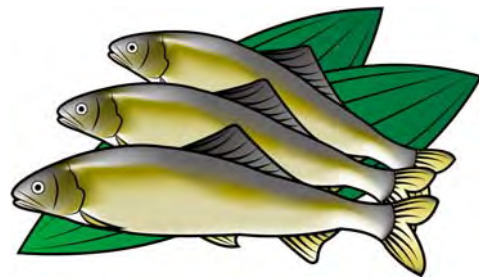


表1 畜産食品中の動物用医薬品の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果				検出限界
	牛の筋肉 (5件)	牛の脂肪 (5件)	豚の筋肉 (5件)	豚の脂肪 (5件)	
<b>【合成抗菌剤】</b>					
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンとの和)	N.D.	-	N.D.	-	0.01
オキシリニック酸	N.D.	-	N.D.	-	0.01
オフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
オルメトプリム	N.D.	-	N.D.	-	0.01
クロピドール	N.D.	-	N.D.	-	0.01
サラフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
ジフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファジアジン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファジミジン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファジメトキシ	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファドキシ	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファピリジン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファメトキサゾール	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファメラジン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
スルファモノメトキシ	N.D.	-	N.D.	-	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
チアンフェニコール	N.D.	-	N.D.	-	0.01
トリメプリム	N.D.	-	N.D.	-	0.01
ナリジクス酸	N.D.	-	N.D.	-	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
ピロミド酸	N.D.	-	N.D.	-	0.01
フルメキン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
フロルフェニコール	N.D.	-	N.D.	-	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	-	N.D.	-	0.01
<b>【内寄生虫用剤】</b>					
フルベンダゾール	N.D.	-	N.D.	-	0.002
イベルメクチン	-	N.D.	-	N.D.	0.005
エプリノメクチン	-	N.D.	-	N.D.	0.005
モキシデクチン	-	N.D.	-	N.D.	0.005

単位:ppm N.D.:不検出

表2 魚介類中の動物用医薬品の検査項目、検査結果及び検出限界

検査項目	検査結果						検出限界
	うなぎ目 (2件)	さけ目 (7件)	すずき目 (4件)	その他 魚類 (3件)	甲殻類 (3件)	加工品 (1件)	
<b>【合成抗菌剤】</b>							
マラカイトグリーン	N.D.	-	-	-	-	N.D.	0.002
ロイコマラカイトグリーン	N.D.	-	-	-	-	N.D.	0.002
ニトロフラントイン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラゾリドン	N.D.	N.D.(6件) 0.001(1件)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
フラルタドン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.001
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンとの和)	N.D.	N.D.(6件) 0.23(1件)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロビドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメトキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメトキシ	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フロルフエニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
<b>【抗生物質】</b>							
オキシテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロルテトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.03
テトラサイクリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.02
クロラムフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.0005

単位:ppm N.D.:不検出

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

## 横浜市感染症発生動向調査報告 8月

### 《今月のトピックス》

- 手足口病が流行のピークを過ぎました。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が続いています。

### 全数把握の対象

#### 【8月期に報告された全数把握疾患】

細菌性赤痢	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
腸管出血性大腸菌感染症	14件	後天性免疫不全症候群 (HIV感染症を含む)	4件
デング熱	3件	ジアルジア症	1件
レジオネラ症	1件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	4件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
ウイルス性肝炎	1件	梅毒	4件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	9件	破傷風	1件
急性脳炎	1件	風しん	1件

- 細菌性赤痢:** *Shigella sonnei*(D群)の報告が1件あり、渡航先(ベトナム(ハノイまたはホーチミン))での感染が推定されています。
- 腸管出血性大腸菌感染症:** 14件の報告がありました。うち、3名は同一焼肉店で喫食していたことが判明しました。調査したところ、従業員1名からO157が検出されました。焼肉をする際には、生肉を扱う時はトングを、焼いた肉を扱う時は箸を使うなど、きちんと使い分け、十分に加熱(中心部まで75℃で1分間以上加熱)することが大切です。また、家族内発生事例が2件ありました。2次感染予防には手洗いが重要です。さらに、下痢症状がある人は専用のタオルを使うなど、他の人と使うタオルを別にしましょう。トイレは常に清潔に掃除し、ドアノブ・水洗レバー・電気のスイッチなど手の触れるところは、特に念入りにきれいにしましょう。
- デング熱:** 3件の報告があり、すべて海外感染例(インド(デリーまたはバンガロール)、バングラデシュ(ダッカ)、スリランカ)です。
- レジオネラ症:** 肺炎型1件の報告がありましたが、明確な感染経路等は不明です。
- アメーバ赤痢:** 腸管アメーバ症4件の報告がありました。2件は国内での性的接触による感染で、もう2件は経口感染(1件は国内、もう1件は感染地域不明)でした。
- ウイルス性肝炎:** 1件のサイトメガロウイルスによる肝炎の報告がありました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:** 9件の報告がありましたが、院内集団感染等はありませんでした。
- 急性脳炎:** 1件の幼児の報告がありました。病原体検索中です。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:** 2件の報告(幼児及び60歳代)がありました。
- 後天性免疫不全症候群 (HIV感染症を含む):** AIDS 2件、無症状病原体保有者1件、その他1件の報告がありました。うち2件は国内での感染(同性間および異性間性的接触)で、もう1件がナイジェリアでの医療機関での感染、残るもう1件が感染地域不明(同性間性的接触)でした。
- ジアルジア症:** 1件の報告があり、国内での性的接触(経口・異性間)による感染が推定されています。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症:** 1件の80歳代の報告がありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症:** 6件(成人例5件、幼児例1件)の報告がありました。幼児では予防接種歴が2回ありましたが、成人例ではすべて予防接種歴が確認できませんでした。
- 梅毒:** 早期顕症梅毒Ⅱ期3件(20歳代女性2件、40歳代女性1件)、無症候期1件(20歳代男性)の報告がありました。感染経路では、国内での異性間性的接触2件、感染地域不明で異性間性的接触1件、感染地域不明で性的接触(詳細不明)1件でした。
- 破傷風:** 70歳代の報告が1件ありました。感染経路不明でした。
- 風しん:** 40歳代男性の検査診断例が1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。[先天性風しん症候群](#)予防のため、妊娠を予定・希望している女性は予防接種を受けましょう。流行の抑制には男性の予

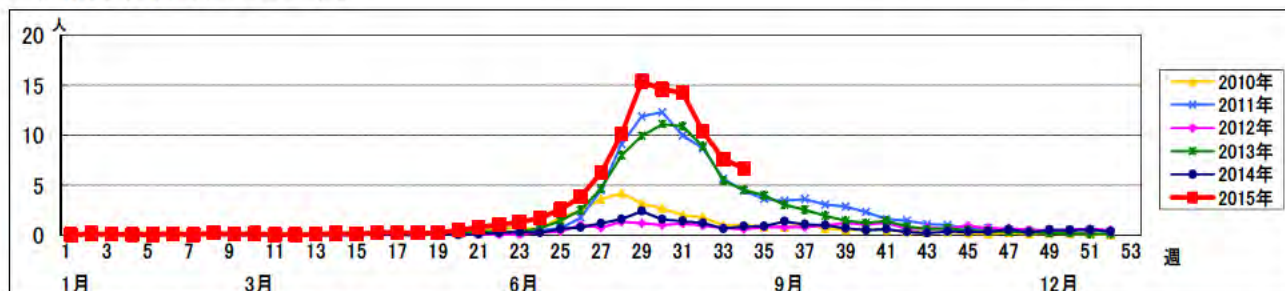


防接種も重要です。横浜市では、①妊娠を希望されている女性(妊娠中は接種できません)、②妊娠を希望されている女性のパートナー(婚姻関係は問いません)、③妊婦のパートナー(婚姻関係は問いません)、を対象に風しんの予防接種と抗体検査を実施しています。詳しくは[横浜市保健所ホームページ](#)をご参照ください。

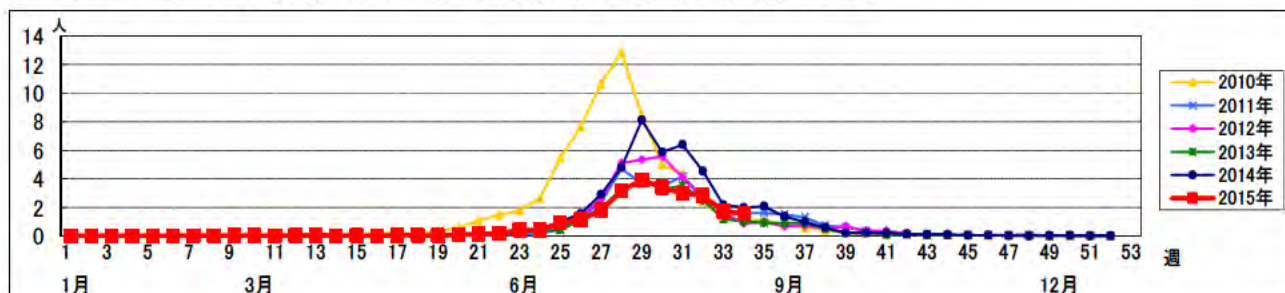
## 定点把握の対象

1 手足口病:今シーズンは過去10年間で最大の流行となりましたが、第34週は市全体で定点あたり6.71と低下傾向です。市内の患者からは、コクサッキーウイルスA16(CA16)とコクサッキーウイルスA6(CA6)が検出されています。CA6による手足口病では、かなり大きな水疱が四肢末端に限局せず広範囲に認められ、罹患1~2か月後に爪甲が脱落する症例も報告されています。

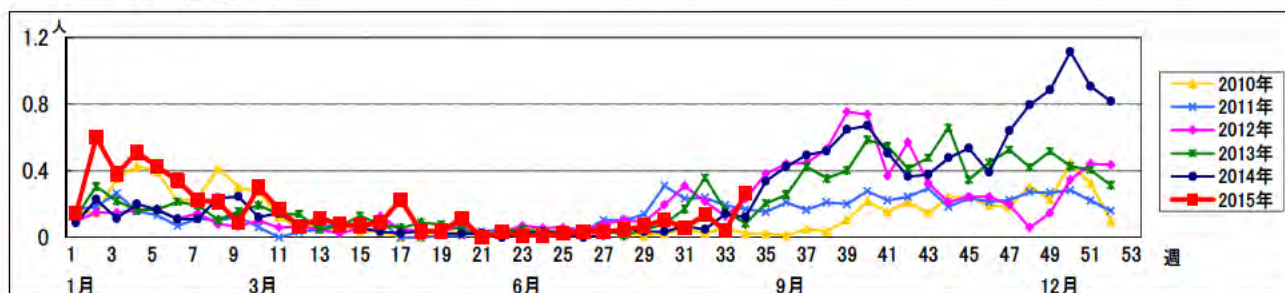
平成27年 週一月日対応表	
第31週	7月27日～8月 2日
第32週	8月 3日～8月 9日
第33週	8月10日～8月16日
第34週	8月17日～8月23日



2 ヘルパンギーナ:第34週は市全体で定点あたり1.57と低下傾向です。



3 RSウイルス感染症:第34週は市全体で定点あたり0.26と、まだ報告は少ないものの、例年これから徐々に増加する疾患です。



4 性感染症:7月は、性器クラミジア感染症は男性が32件、女性が31件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が8件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が4件でした。淋菌感染症は男性が27件、女性が1件でした。

5 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第31週1.00、第32週1.00、第33週1.25、第34週1.25と、継続して報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)、細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

6 基幹定点月報:7月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症5件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症5件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

<ウイルス検査>

8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点34件、基幹定点5件、眼科定点1件でした。

9月7日現在、ウイルス分離8株と各種ウイルス遺伝子26件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(8月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上気道炎	下気道炎	RS 感染症	手足口病	ヘルパンギーナ	無菌性髄膜炎	流行性耳下腺炎	新生児発熱
パラインフルエンザ 1型	1		1					
パラインフルエンザ 3型		1						
RS			4					
ムンプス							1	
ライノ		1						
ボカ		1						
コクサッキー A5型					1			
コクサッキー A6型	3			6	4			
コクサッキー A9型						1		
コクサッキー A10型	1	1						
コクサッキー A16型		1		5				
パレコ 3型								1
合計	0 5	1 4	0 5	5 6	0 5	0 1	1 0	1 0

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

8月の感染性胃腸炎は、小児科定点から1件、基幹定点から8件、その他が12件で、赤痢菌 (*S. sonnei*) が1件、腸管出血性大腸菌 (O26:H11、O121:H19、O157:H7、O157:H-) が12件、サルモネラ (*S. Typhimurium*、*S. Senftenberg*、*S. Litchfield*、*S. Enteritidis*) が7件検出されました。

その他の感染症は小児科定点から4件、基幹定点から2件、その他が42件でした。A群溶血性レンサ球菌T1型は2件とも劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者から検出されました。インフルエンザ菌の血清型はf型とe型でした。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(8月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	8月			2015年1月～8月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
赤痢菌		1			1	1
腸管出血性大腸菌			12		1	49
腸管毒素原性大腸菌					1	
チフス菌						1
パラチフスA菌					6	5
サルモネラ		7			53	3
カンピロバクター						2
コレラ菌						1
不検出	1	0	0	2	21	14

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	8月			2015年1月～8月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌			2	3		6
T1				4		
T4				1		
T6				1		
T12				2		3
T28				1		1
T B3264	1			17		2
型別不能						
G群溶血性レンサ球菌						4
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			8		7	40
バンコマイシン耐性腸球菌					1	2
<i>Legionella pneumophila</i>						4
インフルエンザ菌			2			9
肺炎球菌			4		1	70
<i>Neisseria meningitidis</i>						2
結核菌			12			153
百日咳					1	2
その他		2	13		13	35
不検出	3	0	1	6	2	26

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成27年8月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数 (平成27年8月)

平成27年8月の総アクセス数は、98,741件でした。主な内訳は、感染症情報センター72.2%、保健情報6.7%、食品衛生4.6%、生活環境衛生3.4%、検査情報月報2.6%、薬事0.5%でした。

### (2) アクセス順位 (平成27年8月)

8月のアクセス順位(表1)

表1 平成27年8月 アクセス順位

は、第1位が「A群溶血性連鎖球菌感染症について」、第2位が「B群レンサ球菌(GBS)感染症」、第3位が「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」でした。

8月の総アクセス数は、前月に比べ3%ほど減少しました。今月の1位のA群溶血性連鎖球菌感染症は、しばしば、のどや皮膚に見られるA群溶血性連鎖球菌が原因

です。今年、全国的に感染が多い傾向にあります。咽頭炎(のどの炎症)や膿皮症(皮膚の炎症:伝染性膿痂疹(とびひ)とも呼ばれる)などの症状を起こすことがあります。2位のB群レンサ球菌(GBS)感染症や8位のサイトメガロウイルス感染症は、[健康な妊娠・出産のために注意したい感染症](#)の一つです。3位のクロストリジウム-ディフィシル感染症は、老人や免疫機能が低下している人たちに多く発生します。また、4位のライノウイルスは、鼻、のどといった上気道の炎症をおこします。大人のカゼの2分の1から3分の1は、ライノウイルスが原因だとされています。ライノウイルスによるカゼは、一年中見られますが、特に春と秋に多く見られます。

順位	タイトル	件数
1	A群溶血性連鎖球菌感染症について	10,181
2	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,532
3	クロストリジウム-ディフィシル感染症について	3,437
4	ライノウイルスについて	2,774
5	エンテロウイルスについて	2,408
6	衛生研究所トップページ	2,327
7	EBウイルスと伝染性単核症について	2,310
8	サイトメガロウイルス感染症について	1,842
9	横浜市感染症情報センター	1,770
10	ぎょう虫(蟯虫)症について	1,362

データ提供:市民局広報課

「A群溶血性連鎖球菌感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/strepto1.html>

「B群レンサ球菌(GBS)感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/gbs1.html>

「クロストリジウム-ディフィシル感染症について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/disease/clostridium1.html>

### (3) 電子メールによる問い合わせ（平成27年8月）

平成27年8月の問い合わせは、1件でした(表2)。

表2 平成27年8月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
クラミジアについて	1	感染症・疫学情報課

### 2 追加・更新記事（平成27年8月）

平成27年8月に追加・更新した主な記事は、10件でした(表3)。

表3 平成27年8月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
8月 3日	感染症に気をつけよう(8月号)	掲載
8月 6日	手足口病の発生状況	掲載
8月11日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成27年)【速報版】	更新
8月12日	ヒト・ボカウイルス感染症について	掲載
8月13日	手足口病の発生状況	掲載
8月14日	平成27年 熱中症情報	掲載
8月14日	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	更新
8月14日	咽頭結膜熱について	更新
8月20日	手足口病の発生状況	掲載
8月31日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(平成27年)【速報版】	更新

【 感染症・疫学情報課 】